

## 様式第二号の十三（第八条の十七の二関係）

（第1面）

## 特別管理産業廃棄物処理計画書

令和5年6月29日

岩手県知事 達増 拓也 殿

提出者

住 所 岩手県釜石市甲子町第10地割483番地6

氏 名 岩手県立釜石病院

院長 坂下 伸夫

（法人にあつては、名称及び代表者の氏名）

電話番号 0193-25-2011

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第2項10項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	岩手県立釜石病院
事業場の所在地	岩手県釜石市甲子町第10地割483番地6
計画期間	令和5年4月1日から令和6年3月31日

## 当該事業場において現に行っている事業に関する事項

① 事業の種類	病院
② 事業の規模	病床数272床
③ 従業員数	職員数約300名
④ 特別管理産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙の通り 特別管理産業廃棄物管理責任者 岩手県立釜石病院 院長 坂下 伸夫 ① 感染性廃棄物収集運搬 福興産業株式会社 ② 感染性廃棄物処理 いわて県北クリーン株式会社 ③ キシレン収集運搬 福興産業株式会社 ④ キシレン処理 いわて県北クリーン株式会社

（日本工業規格



## (第 2 面)

特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図) 別紙のとおり			
特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	揮発性廃油(キシレン)
	排 出 量	79.336 t	0.310 t
	(これまでに実施した取組) 院内感染防止対策委員会による廃棄物適正処理・分別に関する指導、マニュアルの配布、分別表の掲示。		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	揮発性廃油(キシレン)
	排 出 量	79.336 t	0.310 t
	(今後実施する予定の取組) 前年度の同等量を見込むが、引き続き院内感染防止対策委員会による廃棄物適正処理・分別に関する指導、マニュアルの配布、分別表の掲示。		
特別管理産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	(分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 【種類】 感染性廃棄物、揮発性廃油(キシレン) 【取組】 院内感染防止対策委員会による廃棄物適正処理・分別に関する指導、マニュアルの配布、分別表の掲示。		
②計画	(今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 【種類】 感染性廃棄物、揮発性廃油(キシレン) 【取組】 院内感染防止対策委員会による廃棄物適正処理・分別に関する指導、マニュアルの配布、分別表の掲示。		

## (第3面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	揮発性廃油（キシレン）
	自ら再生利用を行った 特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 感染物であるという性質上、再利用はしない。		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	揮発性廃油（キシレン）
	自ら再生利用を行う 特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 感染物であるという性質上、再利用はしない。		
自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	揮発性廃油（キシレン）
	自ら熱回収を行った 特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した 特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 感染物であるという性質上、自ら中間処理はしない。		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	揮発性廃油（キシレン）
	自ら熱回収を行う 特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量する 特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 感染物であるという性質上、自ら中間処理はしない。		

## (第4面)

自ら行う特別産業廃棄物の埋立処分に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	揮発性廃油(キシレン)
	自ら埋立処分を行った 特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 感染物であるという性質上、自ら埋立処分はしない。		
② 計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	揮発性廃油(キシレン)
	自ら埋立処分を行う 特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 感染物であるという性質上、自ら埋立処分はしない。		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	揮発性廃油(キシレン)
	全処理委託量	79.336 t	0.310 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	0 t	0.310 t
	再生利用業者への 処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		

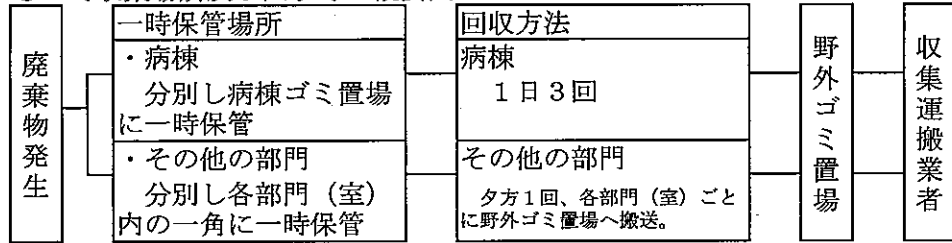
(第5面)

②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	揮発性廃油(キシレン)
	全処理委託量	79.336 t	0.310 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	0 t	0.310 t
	再生利用業者への 処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		
電子情報処理組織の使用 に関する事項	【前年度（令和4年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物 排出量 (ポリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。)	79.646 t	
	(今後実施する予定の取組等) 電子マニフェストの運用を継続する。		
※事務処理欄			

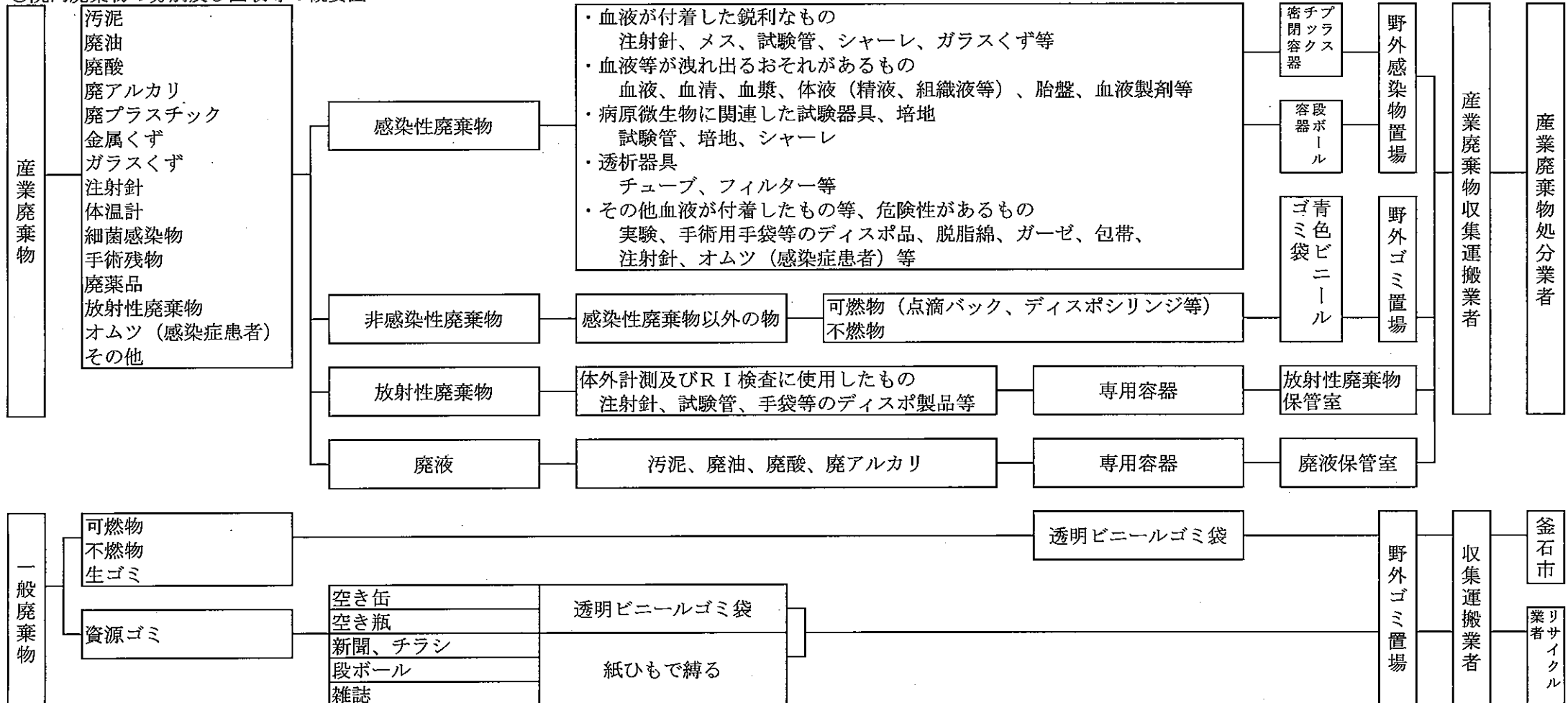
## 備考

- 1 前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が50トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、埋立処分した量を記入すること。なお、中間処理を行うことにより特別管理産業廃棄物に該当しなくなった産業廃棄物を海洋投入処分するときは、その量も含めて記入すること。
- 6 「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令（以下「令」という。）第6条の14第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 7 「電子情報処理組織の使用に関する事項」の欄には、前年度の特別管理産業廃棄物の全発生量（ポリ塩化ビフェニル廃棄物（令第2条の4第5号イからハまでに掲げるものをいう。）を除く。）を記入すること。その量が50トン以上の者にあつては、今後の電子情報処理組織の使用に関する取組等（情報処理センターへの登録が困難な場合として廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第8条の31の4に該当するときは、その旨及び理由を含む。）について記入すること。
- 8 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、特別管理産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 9 ※欄は記入しないこと。

○一時収集場所及び回収等の概要図



○院内廃棄物の分別及び回収等の概要図



•

不要物等発生量

有償物量

**排出量**

数値は、  
上段:前年度実績値

項目	前年度実績値 今年度目標値	
①排出量	79.646	t
	79.646	
②+⑧自ら再生利用を行った量	0	t
	0	
⑤自ら熱回収を行った量	0	t
	0	
⑦自ら中間処理により減量した量	0	t
	0	
③+⑨自ら埋立処分又は海洋投入 処分を行った量	0	t
	0	
⑩全処理委託量	79.646	t
	79.646	
⑪優良認定処理業者への処理委託	0.310	t
	0.310	
⑫再生利用業者への処理委託量	0	t
	0	
⑬熱回収認定業者への処理委託量	0	t
	0	
⑭熱回収認定業者以外の熱回収を 行う業者への処理委託量	0	t
	0	

自ら直接 再生利用する量		
②	0	t
	0	

自ら直接埋立処分又は 海洋投入処分する量	
③	0 0

自ら中間処理 する量		
④	0	t
	0	

④のうち熱回収を行う量	
⑤	0 t

自ら中間処理した後の残さ	
⑥	0
	0

自ら中間処理により減量した量		
⑦	0	t
	0	

自ら中間処理した後 再生利用する量	
⑧	0 0

自ら中間処理した後 自ら埋立処分又は 海洋投入処分する量	
⑨	0
	0

直接及び自ら 中間処理した後の 委託処理量	
⑩	79.646
	79.646

⑩のうち優良認定 処理業者への 処理委託量	
⑪	0.310
	0.310

⑩のうち再生利用 業者への処理委託量	
⑫	0
	0

⑩のうち熱回収認定 業者への処理委託量	
⑬	0 t
	0

⑩のうち熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量		
⑭	0	t
	0	



## )

不要物等発生量

有償物量

数値は、  
上段：前年度実績値

排出量		
①	79.336	t
	79.336	

自ら直接 再生利用する量		
②	0 0	t

自ら直接埋立処分又は 海洋投入処分する量	
③	0 0

自ら中間処理した後 再生利用する量	
⑧	0 0

自ら中間処理した後 自ら埋立処分又は 海洋投入処分する量	0 0	t
------------------------------------	--------	---

⑩のうち再生利用 業者への処理委託量		
⑫	0 0	t

⑩のうち熱回収認定 業者への処理委託量	
⑬	0 0 t

⑩のうち熱回収認定 業者以外の 熱回収を行う業者 への処理委託量		
⑭	0	t
	0	

直接及び自ら 中間処理した後の 委託処理量	
⑩	79.336
	79.336

⑩のうち優良認定 処理業者への 処理委託量	
⑪	0 t
	0

自ら中間処理 する量		
④	0 0	t

自ら中間処理した 後の残さ		
⑥	0	t
	0	

④のうち熱回収を行う量		
⑤	0	t
	0	

自ら中間処理により減量した量	
⑦	0 0

項目	前年度実績値 今年度目標値	
①排出量	79.336	t
	79.336	
②+⑧自ら再生利用を行った量	0	t
	0	
⑤自ら熱回収を行った量	0	t
	0	
⑦自ら中間処理により減量した量	0	t
	0	
③+⑨自ら埋立処分又は海洋投入 処分を行った量	0	t
	0	
⑩全処理委託量	79.336	t
	79.336	
⑪優良認定処理業者への処理委託量	0	t
	0	
⑫再生利用業者への処理委託量	0	t
	0	
⑬熱回収認定業者への処理委託量	0	t
	0	
⑭熱回収認定業者以外の熱回収を 行う業者への処理委託量	0	t
	0	

(産業廃棄物の種類:キシレン)

【別紙】今年度の計画

数値は、  
上段:前年度実績値

